

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------|---|----------------|
| ○事業所名 | こども療育センター結 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年 1月 10日 | | ～ 2026年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 5 | (回答者数) 5 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 12月 15日 | | ～ 2025年 1月 26日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 20日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 職員全員が有資格者であり、外部からの多職種も定期的に出向するため、職場内で多職種連携が行われており、児童発達支援に関する個々の児童に応じた丁寧な支援ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の職員朝礼での専門知識の読み合わせが行われ、全職員がそれぞれの専門の視点を理解した上で、そこに留まらず大きく捉えて利用児への最善の支援を話し合っている。 個々の研修への自発的参加を事業所が積極的に支援することに取り組んでいる | <p>より積極的に学習の機会を作り、知識を柔軟に対応させる技術に繋げる取り組みをしたい。</p> <p>ダブル、トリプルの資格取得が、インプットだけでなくそれが利用児に還元できることまでを一元的に捉えられるように事業所全体で取り組む</p> |
| 2 | 子どもへの直接支援と保護者支援が充実している。 | <ul style="list-style-type: none"> 療育をソーシャルワークと捉えることを全職員で把握し、子どもと保護者を中心にミクロ・メゾ・マクロの視点で支援が出来るように取り組んでいる。 毎回の療育で必ず保護者と話す機会を設けるように努めている。また、親子通園でいつでも保護者の不安や困りごとに対応できるように職員が基準以上に配置されている。 | 職員間の知識や情報の共有をより充実させるよう取り組む。 |
| 3 | | | |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 事業所の強みを発信しきれていない。 | 支援第一と考えて、ほぼすべての時間を支援内容に費やしてしまうことや、個人情報流出が怖いことや操作の知識不足でインスタグラムなどのSNS発信を躊躇している。 | スモールステップで利用している保護者に確実に伝えられているか確認し、職員全員でSNS発信が必要なのか検討する。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |